（第3種郵便物認可）　東京新聞

2019年10月16日

警戒区域外

富岡の土砂災害

土砂崩れで3人が犠牲となった現場一帯を視察する山本知事=富岡市内匠で

「傾斜緩く土砂崩れ珍しい」

国交省専門家が現地調査

土砂崩れで住民三人が死亡した富岡市内匠地区で十五日、国土交通省の専門家が現地調査に訪れ、発生原因などを調べた。

調査後、同省国土技術政策総合研究所砂防研究室の山越隆雄室長らが記者会見し、現場の状況などを説明した。調査結果では、台風19号の記録的な大雨により、二カ所で土砂崩れが発生。規模はそれぞれ幅二十メートル、深さ最大三メートル、長さ三十メートルで、五百～千立方メートルの土砂が崩れた。

崩れた斜面は傾斜が約二〇度と比較的緩く、古い堆積岩の上の関東ローム層から滑るようにして崩れたとみられる。山越室長は「今回のような緩い傾斜地で土砂崩れが起きることは珍しいが、大雨により崩壊することはあり得る」と注意を呼び掛けた。

土砂災害について、傾斜度が三〇度以上で高さ五メートル以上の急傾斜地を主な対象に警戒区域を指定しているが、今回の崩落地は入っていなかった。同席した県砂防課の総見良二次長は「過去の災害を踏まえた基準で警戒区域を指定している。基準を変えると対象はあちこちに広がる」と困難さを指摘。「今後、自主避難や地域の自主的な避難態勢を構築する中で、緩やかな場

防災計画などに反映させる。

内閣府の避難勧告等に関

山本知事に判定開に く避難勧告や指示に主に

「（犠牲者らは）避難指示が出ていないため、あそこ基準に基づいて発令した」と説明している。

十四日午後十一時五十分ごろ、沼田市高橋場町の古書店で男性が倒れていると一一九番があった。沼田署員らが現場で死亡を確認。男性は古書店経営者の兄で、同店店員の斎藤康盛さん（[illegible]）=同市奈良町=と判明した。遺体には複数の刺し傷や切り傷があり、店内のレジに物色の跡も見つかった。県警は十五日、強盗殺人と断定し、沼田署に捜査本部を設置した。

沼田署捜査本部によると、胸や両手に傷があり、現場には大量の出血の跡も見つかった。凶器は発見されていないという。十六日に司法解剖をして死因などを調べる。レジには小銭だけが残っていた。店の外には商品が落ちており、持ち去ろうとした可能性がある。

斎藤さんは店内の南側にある従業員用出入り口付近の通路で倒れていた。当時、この出入り口は無施錠で、捜査本部は侵入経路とみている。店の正面出入り口は施錠されていた。

斎藤さんは十四日は午後七時ごろから一人で勤務。遺体発見時、店内は消灯していた。同日は営業時間は午後九時までで、捜査本部は閉店後から通報までの間に襲われた可能性が高いとみている。

太田 床上浸水 後片付け

台風19号による豪雨で大きな被害を受けた県内は、連休明けの十五日、住民らが流れ込んだ土砂の除去や家具の運び出しなどの対応に追われた。富岡市ではボランティアによる支援も始まった。

（石井宏昌、池田知之）

浸水の高さを指し示す住民=太田市牛沢町で

床上浸水のあった太田市牛沢町では十五日、被害を受けた住民が片付けに追われた。

電器店経営の石原明さん（[illegible]）の自宅では、洗濯機や冷蔵庫が倒れ、足の踏み場がなかったほど。「水は腰の辺りまできた」と振り返った。七十年ほど住み続けているが、ここまでの浸水はなかったという。

同町の女性（[illegible]）も自宅が床上浸水し、家族が反り返った畳などを片付けていた。「家の前の道路は川のようだった」と振り返った。台風が関東に上陸した十二日夜、一階の床下まで水が来たが「そのうち引くだろう」と判断し、二階に避難。漏電でブレーカーが落ち、電気が使えない中、一晩を過ごした。想像を超える増水で家族の大事な写真などがぬれたが、「命があっただけでもよかった」と話した。

富岡 ボランティア 土砂撤去

民家に流れ込んだ泥などをかき出す作業をするボランティアら=富岡市で

鏑川があふれ、浸水被害が広がった富岡市では十五日、ボランティア約百八十人が、住民と片付け作業などに汗を流した。ボランティアは泥にまみれた家具や電化製品をまとめ、運び出したり、まだ使える家財道具や食器類を洗ったりした。

市東部の酢ノ瀬地区では同川沿いの民家十三軒が床上浸水の被害に遭い、ボランティア約百三十人が集中して作業に当たった。市内の知的障害者福祉施設「上州水土舎」の職員と利用者の計十一人もスコップなどを手に泥を懸命にかき出した。赤岩順二施設長（[illegible]）は「地域の人にはいつもお世話になっているので、力になれればと思い参加した」と話す。利用者で参加した小林元希さん（[illegible]）は「力が必要で大変だけど、住んでいる人に喜んでもらえればうれしいです」と笑顔を見せた。

ボランティアの活動について住民の馬場文代さん（[illegible]）は「丁寧に作業してもらい本当にありがたい。夫も八十六歳と高齢で体調が悪く、私たち二人ではどうにもならないと不安だった」と感謝していた。

富岡市では十四日からボランティアの受け付けを始め、同日は市内外から約二百九十人が集まり、四カ所に分かれて道路の側溝や民家に流れ込んだ泥をかき出すなどした。

おくやみ

（通）通夜（式）告別式（自）自宅（喪）喪主

高崎市 吉田和子さん 14日、92歳（式）17日午前10時、下豊岡町、日典ラサ想隣館豊岡。家族葬（自）台町（喪）三女・高橋順代さん▼羽鳥菊代さん 15日、92歳（式）18日午後0時半、足門町、高崎北メモリードホール（自）同町（喪）長男・誠さん。

桐生市 竹内啓吾さん 15日、80歳（通）17日午後6時、みどり市大間々町大間々、セレモニー1ホール高松斎苑（式）18日午前11時、同（自）新里町新川（喪）長男・賢一さん▼金子球恵さん 13日、93歳（通）16日午後6時、広沢町、市斎場（式）17日午前10時、同（自）菱町（喪）次男の妻・令子さん▼小田原フミ子さん 13日、94歳（通）17日午後6時、広沢町、市斎場（式）18日午前10時、同（自）相生町5（喪）長男・正雄さん▼大曾根恭子さん 14日、92歳（通）16日午後6時、相生町、セレモニーホール板場（式）17日午後1時半、同（自）川内町（喪）長男・秀光さん。

太田市 大塚雅好さん 15日、73歳（通）17日午後6時、大原町、やぶづか聖苑（式）18日午後1